

# 第19回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」

〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレパス内

TEL:(06)6910-8800 FAX:(06)6910-8837

2013年9月発行

HPアドレス:<http://www.crapas.com/satooya/index.html>

## 平成25年度対面の会

今年の対面の会は6月29日(土)大阪商工会議所白鳳の間において開催いたしました。今年受け入れた留学生は43名です。嬉しいことに、年々少しずつですが引き受けてくださる里親さんが増えてきています。

最初に西村貞一代表幹事の挨拶、次にご来賓として出席いただいた大阪商工会議所国際部長の丸山新二氏よりお言葉を頂戴しました。その後はいよいよ里親と里子の対面式です。司会の田仲八重子幹事が里親さんの名前と留学生の名前を読み上げて対面し、親子そろっての記念撮影。はにかみながらの対面ですが、いつのまにか懇談会では古くからの知り合いのように、とても賑やかに楽しく語り合っていました。対面の会の後はいつものように大阪企業家ミュージアムを見学させて頂きました。

今回の出会いが留学生にとって、日本でのお父さんお母さんとしてかけがえのない存在となり、楽しい交流になります事を心からお祈りしています。



## 「留学生さとおやの会」に参加して

昨年事務局の松井様に勧められ、「留学生さとおやの会」に加わり、不真面目な幹事しております。かつて大阪市において国際交流を担当しておりましたので、大阪の留学生を増やすことには大いに関心がありました。

国際交流担当になった2000年の当時は1983年に提起された中曽根首相の「留学生10万人計画」により、2000年までに留学生数を10万人台に乗せようということで、大阪市においても奨学金、住宅への敷金援助など多彩な事業をやっていました。現在と比較すれば行政、公益団体などが主体的に国際交流、国際貢献の一環として留学生を増やそうと努力をしていたと感じます。2003年には留学生数が10万人に達し、量よりも質といった声が高くなり、かつ行政においても予算の制約が徐々に強くなり、留学生対策に見直しがかり、徐々に政策の優先順位が落ちていったのではないかと思います。

現在私は行政を離れ、民間で日本への業務渡航を振興する団体におりますが、国、地方ともどもデフレ経済を脱却し今後の成長戦略として、観光客を日本へというin-bound志向が強くなりつつあります。要は、日本へ外国人の観光客に

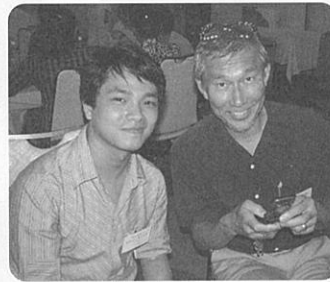
てもらおう、国際会議、見本市を開催し、ビジネスに関わる人々に来ていただく、これによって日本経済にカンフルをという観光交流の流れが起こっています。

こうした状況を鑑みると、将来のビジネスマン、ビジネスウーマンの候補生である留学生を日本に迎える意義は、決して小さくなるものではありません。単に観光客に日本で消費していただくという政策は、近視眼的だろうと感じざるを得ません。むしろ日本で学んでもらった留学生に日本への観光交流の自発的なカタリストになっていただく、そのためには勉強中に日本の良さを理解していただく、こういった将来を見据えた施策も観光行政に期待するものです。

現在留学生さとおやの会は、株式会社サクラクレパスの貴重なご尽力で成り立っています。ここに集われた市民一人一人がボランティア精神で留学生の里親となつて、将来の日本の友人を増やすために努力をされていると言っても過言ではありません。自戒の念を込めて、こうした貴重な市民活動の意義を強調したいと思います。



留学生さとおやの会  
幹事  
木村 勇



## おさらえ会を終えて

私の家では毎年、近くの公民館を借りて「おさらえ会」として日本舞踊を披露しています。母を中心として始まり、今では恒例と言われるほどになりました。

踊りの演目は、母と私だけではなく踊りの仲間と、そして留学生によるものがあります。これまでに何人も留学生が踊りを披露してくれましたが、どの留学生も本当に一生懸命でした。お稽古に来るために遠い距離を自転車で通ったり、振り付けを覚えるために動きを携帯で録画したり（本来は行わない方法です）。お稽古をするために自分は何ができるかを、まっすぐに考えている様子が伺えました。そんな留学生たちを見ていつも、「自分は今まで何をしてきたのだろう」と考えさせられます。

私は、3歳の終わり頃から出演しており、この催しが成り立つことが当たり前になっていました。ですが、毎年変わらずお客さんが観に来てくれること、年を増す毎に協力してくれる方が増えること。それらが決して当たり前ではないということに、近年ようやく気が付いたところでした。

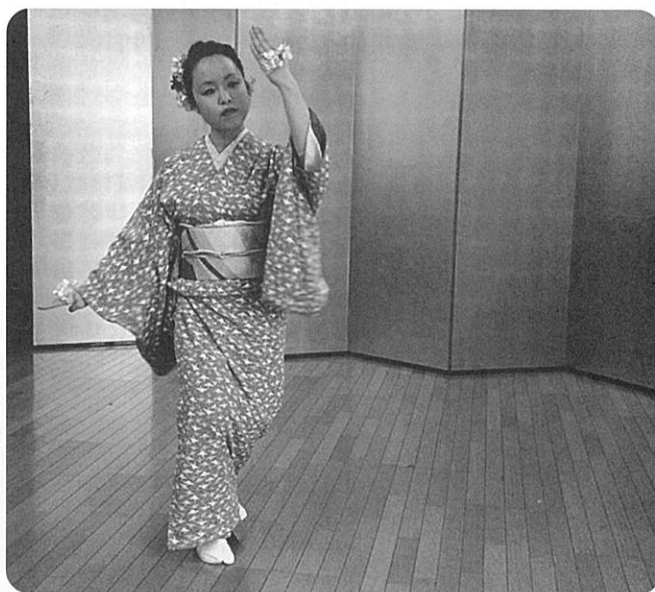
おさらえ会の後にはホームパーティーも行っています。「主催者と招待客」という壁のないオープンなものであるスタイルはずっと変わっておらず、それぞれが食べたい物や飲みたいものなど手料理を持ち寄り、普段着ない服に挑戦してみたりなど今では各々が思い思いの楽しみ方をしているように感じます。父が言うには「自己表現の場」です。特に今年は雨だったため、庭で行う予定だったのを室内で行いました。狭かっ

たのですが、かえって人と人との会話が多くなり、言葉の通じない留学生にも飲み物や食べ物を勧めたりして距離が近くなりました。相手のことをまったく知らなくても、「話してみたい」という気持ちがあるからこのことだと思いません。

私たちがしていることは企画して準備を整えることだけです。それを楽しんでいるものにしてきたのは、やはり来てくれた方々の存在が大きいと思います。「話してみたい」や「楽しみたい」。そういった正直な気持ちで、大きく変わる事があるのだと感じました。



田中 実香  
(高槻市)



I am an exchange student from America who started living in Osaka two months ago. I am really lucky to have Mrs. Tanaka as my host mother and have a chance to learn traditional Japanese dance which I had never consider myself would ever get a chance to learn in my life before. So I was surprised when Mrs. Tanaka first asked me did I want to learn and have a short performance in front of everyone. I went to Mrs. Tanaka's house to practice the dance once a week. This also was the first time I tried on kimono. I was amazed by how many strings were

tied around my kimono. They even put towers around my waist. I was having a hard time to move around or even sat down with the kimono on at first, but after few weeks of practice I started to get used to it.

On the day of performance, I was really nervous, because everyone looks so professional. Although I have practiced the dance many times, I was still kind of afraid that I am not good enough to perform in front of people. During the performance I had danced something wrong but everyone was still really kind and support me. After the performance, we had an after party at Mrs. Tanaka's house. There were lots of delicious food and we sat around the table chat for a long time. It was a really fun day and a special experience that I will never forget for my exchange life in Japan.



CHEN Michelle  
(America)



## 「食」を通しての交流

留学生さんとおやの会に参加して三年目になりました。今までに、フランス・台湾・中国・タイの留学生。又今年はスペインからのゴンザロ君とコートジボアールからのヨザン君、阪大の留学生でブラジルからのアンダーソン君と交流しています。

私は家庭料理を通して日本文化を感じてもらいたいので、必ず数回は手料理で家族と共にワイワイと食事をするようにしています。先日はスキヤキをしたのですが、皆、生玉子が初めてだったり、苦手だったり。でも鍋が空っぽになった頃にはすっかり慣れていました。

毎年お正月には日本独特のおせち料理を食べてもらいたくて、我が家のお正月の集まりに留学生にも参加してもらっています。お屠蘇を年齢順に飲んだり、田作りや栗きんとん、お雑煮など食べてもらったり、またその食べ物を食べる意味など紹介しています。私もある程度解っているつもりでも、いざ説明するとなると再度調べ直したりしています。留学生も興

味津々で色々質問してきたり、それぞれの母国のお正月の習慣など教えてくれたり、私たち家族も楽しく思い出深いお正月を過ごさせてもらっています。

又、対面の会で出会ってから会うたびに、少しずつ日本語が上達していくのも、わが子の成長を見守るようで楽しみです。

私は日本のお母さんと思って接しているのですが、なかなか「お母さんと呼んでね」とは言いたくないです。でも、また日本料理を食べた時に少しでも私を思い出してくれたらいいな、と思って、これからも「食」を通して日本を紹介していきたいように、がんばって交流していきたいと思っています。



岡 智代  
(西宮市)



対面の会の当日、FM大阪（85.1MHz）「大阪Biz Cafe ～企業と留学生のおしゃべりタイム～」の取材・収録がありました。

ラジオでは7月16日（火）20時30分から放送されましたが、パソコンからインタビューと概要を見ることができます。

<http://blog.livedoor.jp/vandy-osakabizcafe/archives/29131460.html>

「大阪Biz Cafe ～企業と留学生のおしゃべりタイム～」のホームページ <http://osakabizcafe.net/>



今年も43組の親子が誕生しました。どんな交流が始まるのか？楽しみなところですが、今年も交流遠足、新年交流会と開催しますので、皆様のご参加をお待ちしております。もし、交流される上での困ったことなどがありましたら、お気軽に事務局までご相談ください。

本活動にご興味のある方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただきますよう、よろしくお願いいたします。随時対面の場を設定させていただきます。  
(事務局)